

いしかわの遺跡

引っ越しました



- 八幡2号墳 -

こんにちは。私は八幡2号墳という円墳です。7世紀に造られてから約1300年の間、現在の小松市八幡町にいました。小松バイパスという道路を作る時に発掘調査をしたところ、私の中の埋葬施設は、木芯粘土室と呼ばれる、全国でも石川県にしか見られない、珍しい構造だということが分かりました。そこで、場所を移して保存することになり、この度、石川県埋蔵文化財センターの「古代体験ひろば」に引っ越すことになりました。壊れないように、コンクリートで大事に包んでもらった後、大きなトラックで運ばれてきました。住み慣れた場所を離れてすこし寂しいのですが、5月には皆さんにお披露目してもらえるそうなので皆さんぜひ私に会いに来てください。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成12年度発掘調査から

大町ゴンジヨガリ遺跡

羽咋市大町ゴンジヨガリ遺跡から室町時代の村の跡が見つかりました。

人々が生活していくのに最も必要なことは水の確保です。この遺跡からたくさんの井戸を発見しました。井戸は、水の湧き出る約50～100cmの深さまで穴を掘り、^{まげものようき}曲物容器を置いてその上に大きな石を積んでいます。曲物とは薄い板を筒状に折り曲げ皮で両側をとじ合わせたものです。曲物容器には、小石や泥など不純物を除ききれいな水を取り入れるため、数カ所の穴を開けています。曲物容器の上に積んである石は、^{ふしゅんぶつ}近くの山からとれるもので、直径20～30cmのものを多く使っています。井戸の中には直径1m近くの大きな石を使用しているものもあり、持ち運びには大変苦労したと思われます。また、井戸は補修したあとがなく、埋った後、新たに掘り起こすようで、そのたびに山から石を切り出してもってきているようです。

水は命の源です。今回の井戸の調査は、むかしの人々が良質な水を手に入れるため、いかに努力や工夫をしていたかを私たちに教えてください。



上から見た井戸



穴の開いた曲物容器



横から見た井戸



石運搬作業の復元
(運んでいる石は調査で出てきたものです)

ヤマントン 山岸25号墳

山岸（ヤマントン）古墳群は鹿島郡中島町、熊木川河口及び七尾西湾を望む丘陵上に位置します。確認総数41基から成る古墳群で、今回県営ほ場整備事業に伴い25号墳の発掘調査を実施しました。墳丘は直径約11mの円墳です。埋葬施設として、無袖型の横穴式石室の一部が確認されました。石室の大きさは全長3.6m、玄室長

2.5m、玄室奥幅約1.2mです。

玄室床面は、小石を敷いた上に板石石材等をのせて構築されています。

また玄室内には、副葬品がたくさんおさめられていました。直刀・鉄鏃・刀子といった武器類をはじめ、耳環・勾玉・管玉・ガラス玉・白玉といった装身具、この他、ヤリガンナやベンガラ、須恵器が見つっています。

この古墳が造られたのは、古墳時代後期と推定されます。

調査は、無数に散乱する石材、予想以上に厚い墳丘盛土、急斜面、激しい時雨に手足をはばまれながら実施されました。



出土した耳環とあざやかな玉類



25号墳全景 斜面を造成し墳丘を造っています。



石室全景 左側の奥壁付近から多くの副葬品が出土しました。



床面敷石の掃除
ソッと、ソッと……。石が夢に出てきそうです。



重機による石室石材の取り上げ 人力ではビクともしなかった重たい石。昔の人はどうやって運んだのでしょうか。

くたに 九谷A遺跡

九谷A遺跡は山中町の中心部から南に12km程入った山間部にあります。大聖寺川総合開発事業により九谷町の集落はすべて移転し、その跡地を平成6年度から発掘調査しています。近くには国指定史跡である九谷磁器窯跡があり、藩政時代には九谷焼と関わりのある集落が存在したのではと考えられています。

本年度は5月17日から12月20日にかけて約2700㎡の調査を実施しました。調査区域はいずれも大聖寺川左岸で、山地に沿うA区、現県道付近のB区、そして大聖寺川堤防に沿うC区です。A区では戦国時代の生活面に盛土をした上に江戸時代の生活面がありました。C区には大聖寺川の護岸とみられる江戸時代の石垣がありました。また、B・C区では石組井戸が18基もありましたが、A区には1基もありませんでした。

そのA区から17世紀前半頃の整地土層上に築かれた7基の焼土遺構を検出しました。もっとも残存状態のよい焼土遺構は、一辺が1mほどの正方形の範囲に焼土が敷き詰められ、真っ赤に焼けた中央部には小さな窪みがあり、また正方形の一角も強く焼けるなど特異な構造が観察できました。現存する九谷焼の絵付け窯では燃焼室（外窯）内に焼成室（内窯）をおきますが、この焼土遺構も同様の構造と考え、周囲からの色絵磁器片・窯の壁材・絵付け窯用の窯道具の出土はありませんが、九谷焼の絵付け窯跡であろうと考えられます。



絵付け窯跡と思われる焼土遺構



道路の下も掘ります



ほとんどが手作業です



石組みの井戸です



井戸の実測です



遺跡の性格を検討中



山中町長も視察に

畝田・寺中遺跡



金沢市畝田周辺では、金沢西部第二土地区画整理事業に伴い、平成11年度から発掘調査が行われています。昨年の調査区ではすでに工事が始まり、今年の調査区もこの先道路や住宅地になります。畝田・寺中遺跡はそうして調査されている遺跡のひとつで、海岸から約1.5km離れた、大野川と犀川に挟まれた平野上に位置しています。周辺には官衙に関する遺跡が点在しており、昨年度の調査では、出拳（古代の税制）について記された木簡や、「津司」と墨書された土器が出土し、郡家・郡津があった可能性が指摘され話題になりました。

今年の調査では、主に古墳時代と中世の集落跡を確認しました。古墳時代では、建物や井戸のほかにも大量の遺物が出土した大溝や河道跡が見つかりました。これら

の遺物にはたくさんの土器以外にも農具・弓・建築部材などの木製品や、勾玉・白玉等の石製品、鉄斧等の金属製品が見られました。中世では、ほぼ東西・南北にまっすぐにのびる溝や、それらの溝に区画されるように建つ掘立柱建物、井戸、木棺墓などが見つかったほか、柄付きの包丁・ノミやアンカなど当時の人々の生活をうかがわせる遺物が出土しています。

河道跡の調査



ただいま、幅14mの河道跡を掘り下げ中



河の中をマス目で区切り、掘った土を袋につめて...



土を洗うと白玉がたくさん見つかりました。玉は小さいからみんな必死！



河の調査は水とのたたかい。全員泥だらけ...



土器が見つかるとうっかりウレシイていねいに取り上げます。



大徳小学校の6年生も溝の発掘を体験(6/15)

出土品整理 その2 記名・分類・接合

遺跡から出土した遺物は、洗浄作業を終えると「記名・分類・接合」という作業に移ります。遺跡の名前や地点などを遺物に書き込む記名作業。土器の種別や部分を分ける分類作業。割れている破片を探して接合する接合作業。

これら一連の作業は、次の実測作業につながるものです。できるだけ元の形に接合できれば、それだけ実測作業のとき有利となります。そのためにも記名と分類は欠かせません。

パズルのようにかならず元の形になるわけではないので、接合作業には、観察力、注意力、直観力など、人間の五感をフルに発揮することが必要となってきます。もちろん手先の器用さも、要求されます。



記名作業



分類作業



接合作業



保存処理室 出土遺物の取り上げ2

保存処理室では遺跡から出土した遺物の中でも手で取り上げられないほどに劣化した遺物や、大きな遺物を薬品や特殊な材料を使って取り上げる作業を行っています。一口に劣化した遺物といっても直径10センチほどの小さな鏡から、はては長さ4メートルもある柱まで、様々な種類があります。そのため担当者は、この壊れやすい遺物を元の形のまま取り上げるために頭を悩ませます。特に木製品は他の遺物に比べると弱く、大きなものが多いのです。また、このような土ごとに取り上げた木製品は室内に持って返った後に色々な処置が必要になります。持ち帰った遺物をどうやって保存するかを決めるのも保存処理室の重要な仕事のひとつなのです。

千代・能美遺跡出土木製品の取り上げ

小松市にある千代・能美遺跡から木製の高坏（たかつき 台付きの杯の形をした容器）が出土しましたが、ひびが入り、崩れそうだったため遺物だけを取り上げることが出来ませんでした。そのため、遺物の下にある土ごと切り取って室内まで持ち帰ることにしました。



現場での作業の様子
無事取り上げました



持ち帰った高坏
ひび割れがあります



樹脂を流す準備
錫箔をぴったり張ります



型取り
シリコン樹脂で覆います

この後、遺物をひっくり返して裏側の土を取り外します。余分な土を取り除いたら、1年間、合成樹脂に浸けて内部の水と置き換えて乾燥させると出来上がりです。この高坏は現在も処理中ですので皆さんにお見せできるのは、もう少し先のこととなります。

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

和田山・末寺山古墳群（国指定史跡）

和田山・末寺山古墳群は寺井町にある加賀地方を代表する古墳群です。手取川左岸に広がる能美平野には能美古墳群と称される60数基の古墳が点在していますが、和田山・末寺山古墳群はこの能美古墳群の中心に位置するもので、昭和50年に国指定史跡に指定されました。この古墳群は昭和26年以來5次におよぶ発掘調査が行われおり、3世紀後半から6世紀の間に造られた、前方後円墳や円墳など40数基が確認されています。この数々の古墳からは古墳時代における古墳造りや埋葬施設の変遷をみることが出来ます。



和田山22号墳（円墳）



和田山5号墳（前方後円墳）

中でも5世紀に造られた和田山5号墳は全長約56メートルの前方後円墳で、2つの埋葬施設を持っています。その埋葬施設からは神獸鏡、甲冑、刀などの武器・農耕具類や鈴など大量の副葬品が出土しました。特に、武器・武具が多いことから、この古墳に埋葬された人は、強大な武力によって能美地域を支配した首長であったことが推測できます。また、和田山1・2・9号墳からも沢山の副葬品が出土しています。これらの副葬品は隣接した寺井町歴史資料館で公開されています。

現在、この古墳群は史跡公園として整備されています。古墳の他に、弥生末期の竪穴式住居跡や高床式倉庫跡に囲まれた憩いの広場やテニスコートもあります。また、公園内は桜の名所としても有名で、春には桜祭りも行われています。満開の桜の中で、在りし日の、古代の王者たちの生活に思いを馳せるのも良いのではないのでしょうか？

和田山・末寺山古墳群（史跡公園）

交 通：JR北陸本線小松駅から史跡公園前行きバスで20分
お問い合わせ：寺井町教育委員会 電話 0761-57-0030
住 所：石川県能美郡寺井町字寺井を20

寺井町歴史民俗資料館

開 館：午前9時から午後5時まで（月曜日休館）
お問い合わせ：電話 0761-58-6103
住 所：石川県能美郡寺井町字寺井を20史跡公園内